肉用牛繁殖新規就農に対する家畜保健衛生所の役割

：京都府丹後家保　坂田貴洋

原材料費や飼料価格の高騰、子牛価格の低迷により、肉用牛繁殖経営が悪化する中、丹後地域で新規就農を果たした農場に対する当所の支援内容を報告。新規就農者は、丹後産自家肥育牛の食肉販売を目指し就農を決意。令和２～３年に京都府畜産人材研修制度の第１期生として、基礎技術と知識を習得。研修後は丹後管内の繁殖農場で勤務し、経営感覚を養成。飼養地の確保、牛舎建設、地域住民への理解促進を経て、令和６年４月に繁殖和牛の飼養を開始。就農に向けて、関係機関と連携し、飼養管理（飼料・資機材の選定）、衛生管理（飲用水検査・ワクチンプログラム）、家畜診療（NOSAI加入・分娩管理）、繁殖管理（巡回・体型測定・去勢）、経営支援（コンサル誘導・補助事業伴走）を実施。衛生面を含め、法令遵守を徹底。今後、子牛市への出品を計画。府主催の畜産ツアー協力やSNSによる情報発信を継続。ベンチマーク農場を参考に、将来的には自家生産牛肉の販売など、6次化も構想。家畜保健衛生所として、農家に寄り添う支援体制の継続。